

時を刻む湖—水月湖が 5 万年の世界標準になるまで

<環境科講演会 2019 年 10 月 25 日 いつでも LOUPE の会 柏木 浩>

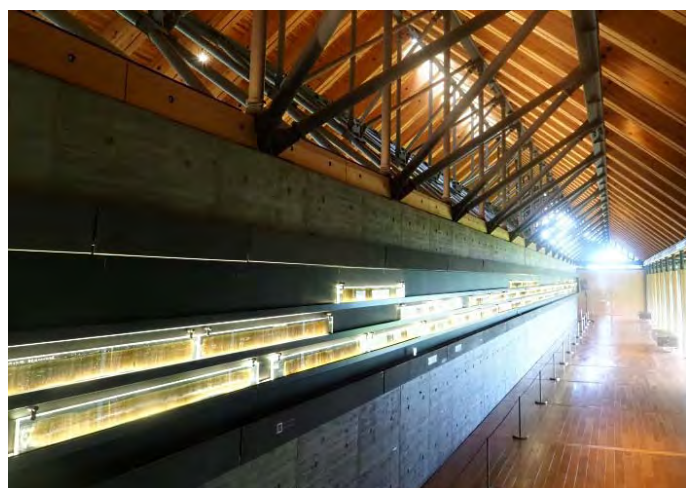
<年縞博物館>

福井県立年縞博物館が 2018 年 9 月に開館した。写真のように 70m の長さの高床式建物である。2 階が展示室になっていて、中央を走る壁の片側に 5 万年分の水月湖の年縞が展示され(2 枚目の写真)、壁の反対側には年縞の写真が展示されている(3 枚目の写真)。これが 5 万年の世界標準になった「時を刻む湖」の主役なのである。年縞の写真が展示されている脇には、さまざまな補助資料の展示ブースもあるが、このようにシンプルな構造の博物館は見たことがない。

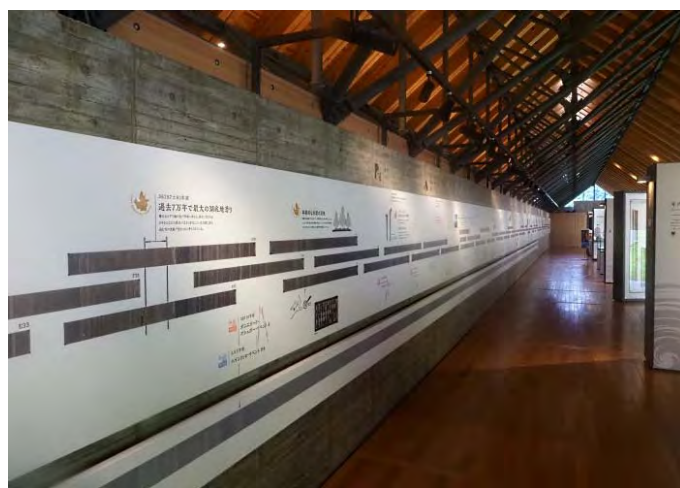
福井県立年縞博物館(2018 年 9 月開館)



5 万年分の年縞



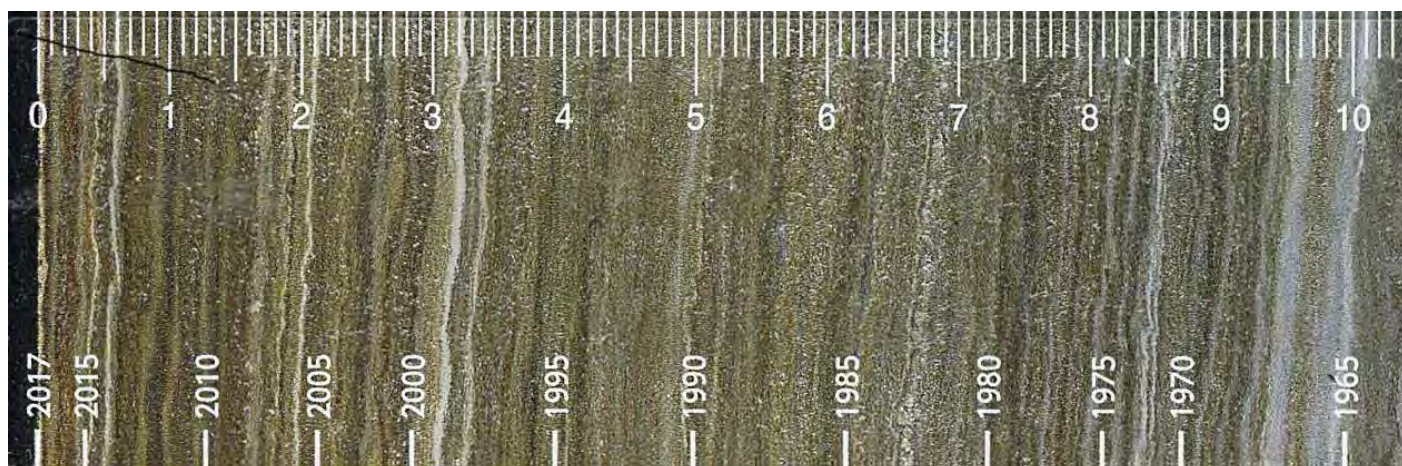
5 万根分の年縞の写真(左写真の壁の裏側)



年縞とはどのようなものかという、次の図のお土産用の 30 cm物差を見るのが解りやすい。物差の上側にはミリ単位が目盛があり、下側には年が刻まれている。10 cmの定規の左端が 2017 年で右端が 1965 年である。この縞模様が年縞で樹木の年輪のようなものである。水月湖の湖底には季節の移り変わりとともに土砂や落葉やプランクトンが規則的に降り積もるので、1 年ごとの縞模様ができる。。最近では 1 年

に 0.5 mm の薄い層が降り積もったものである。

水月湖の年縞(お土産の 30 cm 物差の一部)



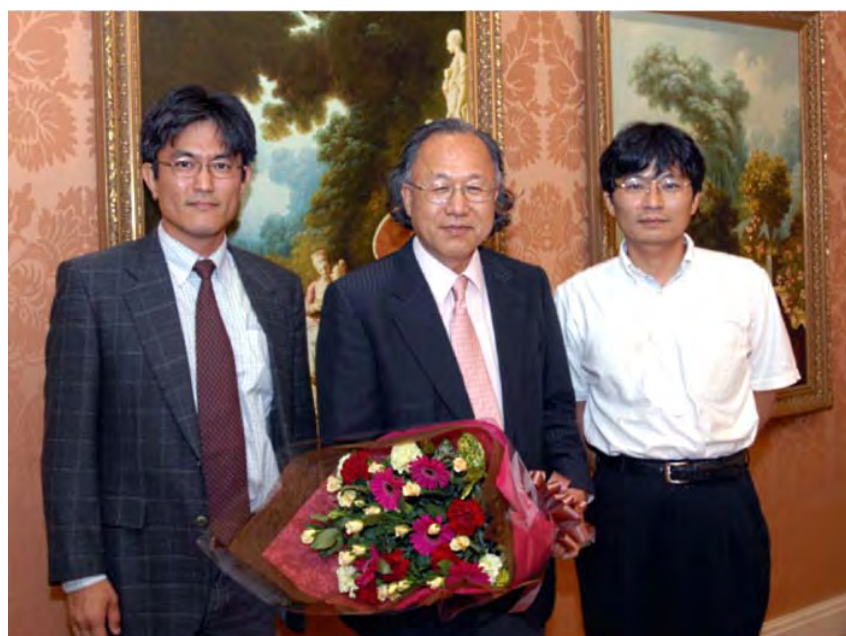
年縞博物館には 5 万年分の年縞が展示されているが、水月湖の湖底には 15 万年分の層が堆積している。現生人類が誕生したのが 20 万年前、アフリカを出て世界に拡散したのが 6 万年前以降だから、水月湖の年縞は現生人類のほぼ全時代を記録していることになる。きわめて貴重な資料なのである。

過去 5 万年までの考古学資料の年代測定は放射性炭素 C14 が用いられる。この年代測定を精密なものにするための世界標準に水月湖の年縞が認定された。2013 年のことである。それを記念して 2018 年に年縞博物館が開館したのである。

＜世界標準へのホップー安田喜憲の三方湖花粉分析＞

水月湖の年縞が世界標準になるためには次の写真の安田喜憲、北川浩之、中川 毅のホップ・ステップ・ジャンプの 3 段階の研究が必要だった。この物語は主に、中川が書いた「時を刻む湖」[1]と「人類と気候の 10 万年史」[2]に書かれている。まず安田によるホップの解説から始めよう。

左から、中川 毅、安田喜憲、北川浩之(2006 年)[3]



三方湖の湖畔にある年縞博物館のすぐ前に次の写真の若狭三方縄文博物館がある。円錐形の築山に埋め込まれたような面白い形をしている。いつでも LOUPE の会で 2011 年の冬に訪れたときは真白な円錐の雪山になっていた。この博物館は鳥浜貝塚[4]をはじめとする縄文遺跡の出土物を集め、2000 年に開館している。鳥浜貝塚は 12000～5000 年前の遺跡で 1962 年から 1985 年にかけて発掘調査が行われた。日本最古級の縄文遺跡で、縄文草創期から中期までの 7000 年にわたる生活の歴史が刻まれている。

若狭三方縄文博物館



展示品を 2 つだけ紹介すると、左下は 12000 年前の縄文土器、右下は 6300 年前の丸木舟である。いずれも日本最古級である。丸木舟は長さ 6m、推定される深さは 30 cm ほどで、波の少ない湖で使われたものと思われる。魚を獲ったり、集落から集落へ行き来に使ったりしていたのだろう。

12000 年前の土器(鳥浜貝塚、レプリカ)



6300 年前の丸木舟(ユリ遺跡)



次の図は縄文時代の三方五湖である。当時の久々子湖は日本海の入江で、三方湖は今の 2 倍以上の広さだった。①が鳥浜貝塚の位置で三方湖に突き出した岬の先端にある。今の博物館があるあたりである。五湖の周辺には 10 ヶ所にのぼる遺跡が発見されている。